



今年も皆さんの暮らしを元気にしていきます!

昨年の世相を表す漢字で選ばれたのは「新」でした。見直し・削減の事業が次々と発表されていますが、滋賀県でもこの「新」を象徴するさまざまな新しい事業が行われ、暮らしを変えつつあります。県民が夢と希望を持てる新しい施策を進めるのは行政の責務です。これに伴い県政ではさまざまな問題も持ち上がっていきますが、皆さんの暮らしを元気にするため、しっかり議論を重ね取り組んでいきたいと思っておりますので、今年もよろしくお願い申し上げます。



新しくなります!

■ 湖南幹線、砂川大橋の撤去・4車線化今年7月完成

滋賀県の主要幹線である大津湖南幹線の車線拡大整備が順次進められ、草津市木川町～野村町区間(砂川工区)工事がまもなく完成します。この工事は総事業費約12億6,200万円で、砂川大橋付近で慢性化する渋滞を解消するため、砂川大橋を撤去し、4車線の道路整備を行ったものです。この工事の完成により、交通渋滞が解消され、利便性が飛躍的に向上します。このように、これからも皆様の暮らしを豊かに、便利にするために、ますます尽力してまいります。



工事前の渋滞の様子



工事中の様子



完成イメージ図

■ 滋賀県平和記念館の早期完成

戦後65年を迎え、戦争を体験された方々も高齢化される中、不幸な体験を風化させてはなりません。県では戦争体験を語り継ぎ、平和を願う心を育む施設として滋賀県平和記念館(仮称)の建設計画を進めています。現在は県が収集した資料の一部をホームページや仮設展示で紹介するのみで常設の場がないため、今後戦争の痕跡を一同に展示するこの施設の完成を早急にもとめ、平和の大切さをひろめていきたいと考えています。

現在東近江市の愛東支所を候補地に絞り、住民説明会を開くなど開館に向けて準備を進めています。

新しく提案します!

■ JR南草津駅に、新快速停車を!

JR南草津駅に新快速電車の停車を目指す「南草津駅新快速停車促進期成同盟会」が発足し、私は、顧問に就任いたしました。この会は草津市や市自治連合会、草津商工会議所など7団体で組織され、今後早急にJR西日本京都支社へ停車の要請を行う予定です。実現のため、地元住民の方々と協力し、推し進めてまいります。



■ 伝統文化を観光振興に

昨年12月に会派視察の一環で徳島県鳴門市にある大塚国際美術館をたずねました。特殊技術によって、世界中の名画を信楽製の陶板に原寸で焼き付けたものが展示されており、大変感銘を受けました。これは私の個人的な提案ですが、信楽が誇る技術と、日本の伝統絵画、近代絵画を再現した日本画美術館を琵琶湖沿線などに開設し、地元信楽の伝統技術を広めると同時に、日本が誇る伝統絵画芸術文化と地域の観光振興に役立てはかがいでしょうか。柔軟な発想で、これからも提案していきたいと思っております。



● 昨年の11月定例議会では以下の質問を行いました。 その他、犯罪対策にどう取り組むかについても質問いたしました。

外郭団体及び公の施設見直しについて

「外郭団体及び公の施設の見直しに関する提言」に対して、反対や不安の声が続出しています。「しが県民芸術創造館」の見直し、職員の雇用不安、下水道公社の廃止に対する説明について、それぞれ知事の考えを伺います。

<知事の回答>

しが県民芸術創造館については、これまでの成果や役割を踏まえて検証し、様々な立場の方との対話の場を設定していきたいと思っております。外郭団体の雇用問題は、大変重要な課題だと認識しており、今後の見直し方針に沿って対応してまいります。下水道公社の廃止については、今後の維持管理は県自信の役割として積極的に担う考えであり、一貫した管理体制による安全対策など地域の皆様に丁寧に説明し、納得していただけるよう努力してまいります。

世界湖沼会議と観光施策について

昨年世界湖沼会議が中国で開催され、イナズマロックフェスに3万人が来県しました。今後も世界会議での滋賀のPRと観光施策が重要ですが、世界湖沼会議の成果と、世界会議やロックコンサートの経済効果について伺います。

<知事の回答>

成果は、環境政策に生かせる方向が得られたこと、多くの県民が湖沼に関する国際的な理解を深めたこと、滋賀県・琵琶湖をPRする好機であることを改めて認識したことです。経済効果については、イナズマロックフェス2009では約2億4千万円の経済効果があったと考えられます。過去に本県で行われた世界湖沼会議でもかなりの経済効果があったと思われ、2012年の「先進陸水海洋学会」の本県での開催には世界へのPRとともに経済効果にも期待しています。

H21年度教育予算とLD・ADHD対策について

教育関係事業の一部廃止が「質的な教育の低下を招くのではないかと懸念されています。県単独の予算化の考えはあるのか伺います。

<知事の回答>

文部科学省として必要な予算確保・制度設計等に努力されることを期待し、県としてその過程を注視しながら現場の声を届けていきたいと思っております。

LD(学習障害) LDHD(注意欠陥多動性障害)、高機能自閉症の子どもたちに対する教育現場での取り組み状況を伺います。

<教育長の回答>

各校園において校内委員を設置し、ケース検討や研修を実施し、職員全体の共通理解を図るとともに、校内で気軽に相談できる関係づくりに努めています。

